

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行 浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460

2023(令和5)年

仏暦2566年

9月号

(第144号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホツがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

私はどのように救われるのか

正信念仏偈に学ぶ
本願名号正定業
至心信楽願為因
本願の名号は正定の業
なり。至心信楽の願を因とす。

「現代語訳」
本願成就の名号は衆生
が間違ひなく往生するた
めの行であり、至心信楽
の願(第十八願)に誓わ
れている信を往生の正因
とする。

ここからは、浄土真宗、親鸞
さまの教えに入っていくま
す。

親鸞さまの教えの基になっ
ていることは、この私がこの
世において、いかにして確か
な人生を歩むことが出来るの
かということなのです。そして、
必ず仏と成らせていただく
依りどころを見出されたので
す。

その必ず仏と成ることに
定まることを「正定」と言

います。そして、「本願の名
号」とは、念仏の「南無阿弥
陀仏」のことで、「本願の名号
は正定の業なり」は、私た
ちの行いの中で、最も正しい
業(行い)は「南無阿弥陀仏」
を聞思して称えることである
といわれています。

今年の二月号(第一三七号)
に、法蔵菩薩が四十八の願い
を起こされ、その中でも十八
番目の願が、浄土真宗で最も
重要視する願であると言いま
した。

わたしが仏になるとき、
すべての人々が心から信じ
て、わたしの国に生まれた
いと願ひ、わずか十回でも
念仏して、もし生まれるこ
とができないようなら、わ
たしは決してさとりを聞き
ません。

その第十八願が「至心信楽
の願」で、正しく往生する因
(たね)であるといわれます。

まとめますと、この二句は、
私はどのように救われるのか
明かしています。それは、
「南無阿弥陀仏」の謂れを聞
き考え称えることによつて、

正しく往生(救い)の因(た
ね)を得られることができる
ということなのです。

このように、「南無阿弥陀
仏」と念仏称え、先立たれた
方々の成仏を願うものではな
く、この私がいずれ同じ浄土
へ救われる因(たね)を得る
ための念仏であつたという見
方ができます。

親鸞さまのお弟子である唯
円の書かれた有名な『歎異抄』
があります。その中に、浄土
真宗の教えを一言で語られて
いる言葉があります。

本願を信じ
念仏申さば仏になる

どのように救われるのかとい
うことを簡潔に述べてくださ
つていて、私も葬儀などで法
話に取り上げお話しをさせて
頂いています。

この二句は、次の二句にも
続く内容をもつていきます。繰
り返す内容も出てきますが、
続けて次号もお読みくださ
い。



浄土真宗 新 仏事のイロハ

四、法要・行事

— 仏縁を深めよう —

「法事の日取り」

法事に、自分の都合を優先させない

お寺に法事を依頼されるご門徒に、いくつかの傾向が見られます。一つは、土曜・日曜を選ばれること。一つは、複数の故人の法事を一緒にする併修が多くなったこと。そして、家族だけといった少人数で行うケースが増えてきたことです。

土曜・日曜が多いのは、仕事や休みで家族や案内する縁者の都合がつきやすいからでしょう。しかし、それを「当然のこと」とは考えないでほしいのです。本来は、やはり祥月命日（亡くなった日）が同じ日か、その前日の速夜に勤めるところを「自分たちの都合で日を変えた」という

認識が必要でしょう。仏法というものは、世俗の用事をさいても聞くべきものだからです。

法事を勤める心がまえは、あくまで「亡き人の命日をご縁として、仏法を聴聞させていただく」のが基本です。

その上で、やむを得ず日を変えなければならぬ時は、命日からあまり離れない日を選びます。その際一命日より遅れてはいけない」などこだわりがなくてもけっこうです。

また、法事の日取りを決めるには、あらかじめお寺の都合を聞いておかなければなりません。



ません。お寺と日時の打ち合わせをした上で、参拝される方々にご連絡ください。

次に、法事の併修についてですが、これも可能な限り、一人ひとりの法事をしていただきたいものです。一周忌、三回忌まではきちんと勤められることが多いのですが、年が経るにつれて併修が増えてくるようです。また、親の年忌に兄弟や子の年忌を併せるケースがあります。これらは、ついでに勤める印象にならないように注意しましょう。年忌法要である以上、仏法を聞く中で亡き人の遺徳を偲ぶわけですから、三人も四人もとはいきません。やむを得ず併修する時は、法事の日以外の故人の祥月命日にも、家族でお参りしましょう。さらに、少人数の法事ですが、できる限り大勢なのが望ましいことです。それが、ともに仏法を喜ぶ人びとの願いだからです。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より

年忌法要表

1 周忌	2022 (令和 4) 年	23 回忌	2001 (平成 13) 年
3 回忌	2021 (令和 3) 年	25 回忌	1999 (平成 11) 年
7 回忌	2017 (平成 29) 年	27 回忌	1997 (平成 9) 年
13 回忌	2011 (平成 23) 年	33 回忌	1991 (平成 3) 年
17 回忌	2007 (平成 19) 年	50 回忌	1974 (昭和 49) 年

編集後記

お詫び／今月号の編集作業中に、コロナ感染をしたため、来月分と同時発行とさせていただきます。申し訳ございません。◆家族一同で感染してしまい、大変な日々を経験致しました。もう、どこから誰からとか考えるものでもなく、一週間ほどひたすら治すことに専念して、復帰できました。